



インクルーシブ教育システムの構築

- 個々に応じた学びを大切にしつつ、障害のある子どもとない子どもが「地域で共に学び合う」ための仕組みを整備されたい

【提案・要望先】文部科学省

1. 提案・要望内容

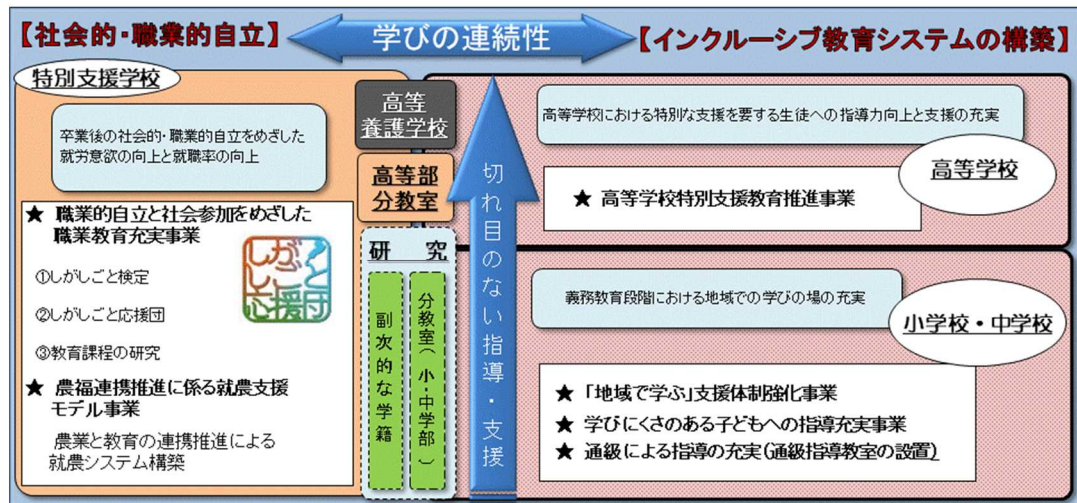
副次的な学籍の取組を進めるための人的措置

- 特別支援学校に在籍する児童と小学校に在籍する障害のある児童が、それぞれの学校において主たる学籍と副次的な学籍を置き、小学校での「共に学び育つ機会」と、特別支援学校での「専門的な教育を受ける機会」の両方を実現するための体制整備を推進
- ・ 副次的な学籍制度の取組を推進するため、特別支援学校を核として活動する特別支援教育コーディネーターを基礎定数化

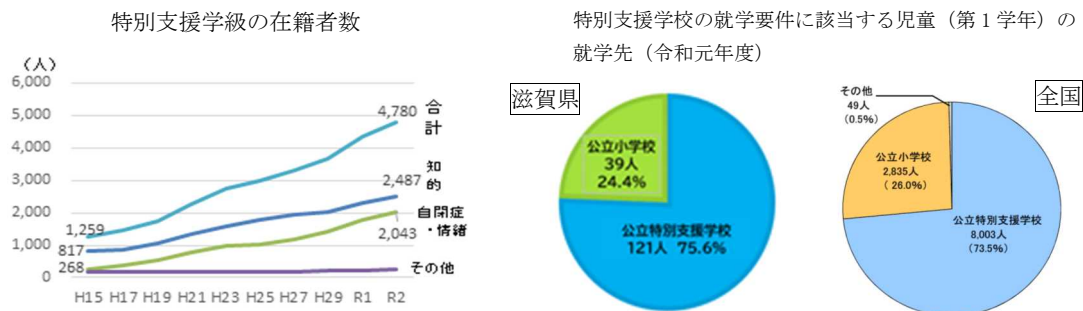
2. 提案・要望の理由

- インクルーシブ教育システムの仕組みの構築に向け、障害のある児童と障害のない児童が地域でともに学ぶ仕組み作りを具体的に進めることが急務。
 - ・ 柔軟な学びの場の選択と連続する多様な学びを実現するため、交流及び共同学習を一層推進する観点から、副次的な学籍の制度化が必要。
 - ・ 制度化に向けては、児童の障害の状況など個々に応じた適切な指導のため、交流授業の内容や環境整備等、きめ細やかな関係校との調整を行うコーディネートのための教員が必要。
 - ・ 現状では、各校の担任等が調整を行うことになるが、副次的な学籍の取組を組織的かつ継続的に進めていくためには、特別支援学校を核として活動する特別支援教育コーディネーターを専任化することが不可欠。

(1) 「地域で共に生きる」特別支援教育の推進



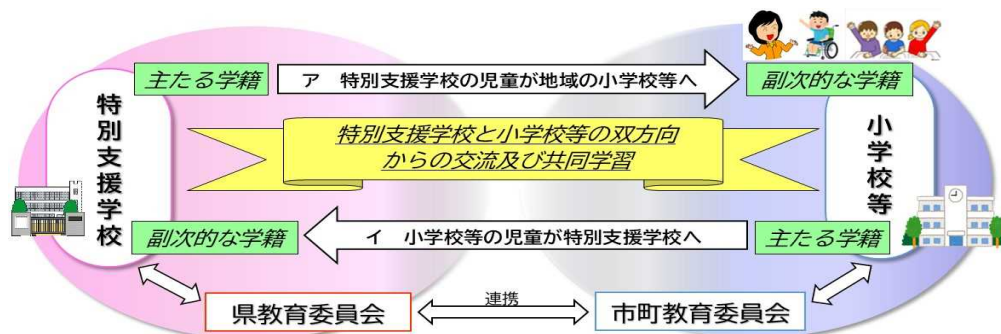
(2) 小中学校に在籍する障害のある児童生徒の状況



(3) 副次的な学籍（副籍）に関する研究

本県では、平成28年度から、小学校と特別支援学校の双方で学ぶことができる「副次的な学籍（副籍）」に関する研究を実施。

これまで、3市（小学校6校、中学校1校）と県立特別支援学校3校で、モデル校を指定。



- 成果
- ・ともに学ぶことで、子ども同士のつながりや、特別支援学校の児童生徒が地域とのつながり深まった。
 - ・同じような障害特性のある児童の集団の中で活動することで、意欲的に学習に向かうことや、ともに学ぶことで社会性を養うことができた。
 - ・教員の特別支援教育に関する専門性が向上した。
- 課題
- ・副次的な学籍をコーディネートする教員の配置が必要。

担当：教育委員会特別支援教育課企画管理係
TEL 077-528-4640